



# 学校だより

## 学校の教育目標

- ・思いやりがあり、心の豊かな人になろう
- ・自ら学び、考え、表現できる人になろう
- ・心身ともに進んで鍛え、健康な人になろう

第10号

令和6年2月22日

杉並区立阿佐ヶ谷中学校

校長 齋藤 健一

## 杉並区教育調査の結果

保護者評価の観点	区全体	阿佐ヶ谷中
子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできているが増えている	54.7	52.7
子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	65.5	61.6
子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	49.7	55.4
学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	46.3	47.3
連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	40.6	47.3
子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	64.7	61.6
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	34.0	41.1
学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	43.2	49.1
学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	62.8	69.6
学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	79.0	61.6
学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている	43.9	48.2
子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	35.0	39.3
学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	27.8	63.4
子どもは、学校生活を楽しんでいる	68.4	68.8
子どもは、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた目標の設定や手だてにより自立と社会参加の可能性が広がっている	66.7	100.0
子どもは、通級指導教室・特別支援教室で学ぶことによって、学校生活全般への参加がしやすくなっている	62.2	50.0
子どもは、地域の行事に参加している	28.9	33.3
学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、障害者に関する様々な情報を、保護者会や個人面談、進路説明会などの機会をとおして提供している	42.0	44.4

学校運営協議会委員評価の観点	区全体	阿佐ヶ谷中
子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている	76.3	100.0
子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている	79.4	100.0
教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っている	77.9	100.0
学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	76.3	100.0
児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている	75.6	100.0
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	49.6	80.0
学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している	88.5	100.0
学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている	80.8	100.0

#### 【考察】

今年度より Web での回答となり、生徒対象の調査がなくなりました。回答率は、保護者 47.2%、地域（学校運営協議会）71.4%、教員 60.0%でした。

保護者評価で区平均を大きく下回った「欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化」につきましては、次年度より保護者連絡ツール「TETORU」を導入し、学校から保護者へのお便り配信や保護者から学校への欠席連絡などをオンラインで効率化を図ります。区平均を大きく上回った「通常の学級や特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている」につきましては、特別支援学級設置校としての強みを生かすべく、今後も生徒たちとできることを一緒に考えてまいります。

教員評価では「生徒の『探求的・協働的学び』」と「教員の『働き方改革』」に関する課題が明らかになりました。これらを解決していくためには、教師主導から生徒主体への授業改善が急務であり、そのためには 2019 年中教審答申で示された『3分類』に基づいた業務の整理をさらに推進する必要があります。言い換えますと、学校は教育活動や業務内容を見直し、生徒は自治力を発揮し、行政はその権限と責任で支援体制を構築していく必要がある、ということです。そうなりますとやはり、保護者の皆様のご理解とご協力が欠かせません。教員の働き方改革を、生徒の安全・安心かつ有意義な学校生活へとつなげるために、ご理解とご協力を賜れますよう今後ともよろしくお願い申し上げます。

教員評価の観点	区全体	阿佐ヶ谷中
授業では、普段の生活のことや社会での問題・話題になっていることを材料に学べるようにしている。	75.8	88.9
授業では、「授業を進めるのは、先生ではなく、児童・生徒である」と児童・生徒が感じられるようにしている。	49.0	44.4
授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。	51.3	11.1
授業では、児童・生徒が、挑戦や失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組めるようにしている。	77.5	77.8
授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。	43.0	55.6
授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている。	69.5	77.8
授業の中で出た意見や考えを、児童・生徒が自分の学びに生かせるようにしている。	78.5	88.9
授業では、児童・生徒が、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている。	77.8	66.7
学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている。	72.8	77.8
学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている。	63.9	55.6
学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	59.9	44.4
児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	56.3	55.6
連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育 9 年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	53.6	66.7
教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている。	66.6	55.6
子どもと向き合う時間が確保できている。	45.4	22.2
タイムマネジメントを意識して勤務できている。	49.3	33.3
勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる。	41.7	11.1
誇りややりがいをもって仕事を行うことができている。	69.5	66.7
ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている。	36.1	33.3
スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている。	75.5	44.4
児童・生徒 1 人 1 台専用のタブレット端末や学習 e ポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	69.2	66.7
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じた選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている。	43.0	77.8
授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている。	61.6	55.6

\* 黄色は区平均値よりも低値の項目、青色は区平均値よりも高値の項目

## 教育活動報告

2月12日(月)から14日(水)、G組が、杉並区立中学校6校の特別支援学級が合同で行う連合移動教室で、菅平高原スキー場へいきました。自然の中でスキーを楽しみ、自分のことや班の係の仕事を進んで行うことができました。



昼に学活・清掃を行うことで放課後の時間をやりくりし、全学年の生徒が学習に取り組む補充週間。従来の副教材に加え、AI教材も活用しながら学年末考査に向けて頑張っています。その後、学校支援委員会主催の放課後学習会にも参加し、「わからない」を「わかる」に、「わかる」を「できる」に変えようと、質問しながら自学に励む生徒もいます。



## 3月の予定

月日	曜日	給食	行事予定
1	金	○	都立高一次発表
2	土	×	土曜授業/春のこども祭り
3	日		
4	月	○	学年朝礼 学校公開終 文化発表会展示部門終
5	火	○	⑥阿佐中サミット(1・2・G)
6	水	○	ESAT-J YEAR1, YEAR2 ⑤3年生を祝う会(G) 保護者会(全) 都立高二次受付
7	木	○	⑤式練(1・2)
8	金	○	安全指導/④セーフティ教室(3)
9	土		都立高二次検査
10	日		
11	月	○	全校朝礼 ⑥カット 各種委員会 ①全校合唱練習
12	火	○	3年特別時間割始
13	水	○	③④がん教育(3) 職員会議
14	木	○	都立高二次発表
15	金	○	③④卒業式予行
16	土		
17	日		
18	月	○	生徒会朝礼/⑤卒業式前日準備
19	火	×	卒業式 学年会
20	水		春分の日
21	木	○	小笠原自然体験交流始 新入生体験入級・保護者説明会(G) 都立高定時二次受付
22	金	○	⑥大掃除 ④カット
23	土		
24	日		
25	月	×	修了式 職員会議学年会
26	火		春季休業日始 都立高定時二次検査
27	水		小笠原自然体験交流終 都立高定時二次発表
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		